

3月の事業・行事

2月20日現在

実施予定日	開始時間	講座内容 / 行事内容	備考
3/8 (日)	9:30	第40回西条市民親睦囲碁大会 (受付9:05~)	
3/12 (木)	10:00	第2回公民館運営審議会	
3/13 (金)	18:30	理事会	西条市PTA連合会
3/22 (日)	13:30	西条市吹奏楽フェスティバル2026 (開場13:00)	西条吹奏楽アカデミー

○行事変更等の詳細は、主催者に直接お尋ねください。

3月の休館日 2 (月) 9 (月) 16 (月) 20 (金) 23 (月) 30 (月)

西条吹奏楽アカデミー主催

西条市 SAIJO BAND FES 2026 吹奏楽フェスティバル2026

日時 3月22日 (日) 13:30開演 (13:00開場)

場所 中央公民館 多目的ホール

出演 東予ウィンドハーモニー
西条を中心に活動する中高生および一般の吹奏楽愛好家の皆さん

- 演奏曲
- ♪ アルセナール
 - ♪ ソナタ・ヘキサグラミック (Sax. 3重奏)
 - ♪ ディズニー・ヴィランズメドレー
 - ♪ ジャパニーズグラフィティXIV
A・RA・SHI~Beautiful days
 - ♪ ディスコ・キッド ほか

入場無料

<後援>
西条市
西条市教育委員会
愛媛県吹奏楽連盟
愛媛新聞社
ハートネットワーク

<ご注意>

公民館の駐車場は正面と裏のみ使用できます。体育館正面および北側は使用できません。満車の場合は臨時駐車場として、西部総合福祉センターにも停められますが、限りがあります。できるだけ、乗り合わせが公共交通機関のご利用をお願いします。

入場者が多数の場合は、立ち見もしくは、入場できないことがあります。ご容赦ください。入場は先着順となります。2階観覧席は関係者席となります。1階席をご利用ください。

お問い合わせ 西条吹奏楽アカデミー
saijo.city.wind.orchestra.academy@gmail.com
公式ホームページ<https://saijosuisougaku.wixsite.com/home>

中央公民館だより

2026年3月
No.164

3月

〒799-1371 西条市周布401-1
Eメール: chuo-k@saijo-city.jp
TEL: 0898-65-4030 FAX: 0898-65-4032



西条市役所HPにカラー版の
公民館だよりを掲載しています。
←こちらから

市内公民館 5年連続受賞！ 大保木公民館 優良公民館文部科学大臣表彰に輝く！

この度、大保木公民館が「令和7年度 第78回優良公民館文部科学大臣表彰」を受賞しました。

大保木地区は、人口123名、世帯数72世帯の限界集落ですが、小・中学校が廃校になって30年が経ち「子どもの声を呼び戻したい」との地域の声が高まり、地元住民と高校生との交流事業として「里山の生活体験教室(体験活動)」を平成29年から開始し、地域住民の新たないきがいつくりとなっていることなどが評価され、今回の受賞となりました。

本市では、令和6年度の大町公民館、令和5年度の玉津公民館、令和4年度の神拝公民館、令和3年度の禎瑞公民館に続いて、5年連続の受賞となりました。おめでとうございます。



かざらでカゴ作り体験



山こんにやくづくり体験



薪割りと薪を使ったご飯づくり

第40回 西条市民親睦囲碁大会

日時: 3月8日 (日) 9時30分~

<受付>9時05分~

場所: 西条市中央公民館 2階学習室

- 申し込みは終了しています。申し込みされた方は、忘れずにお越しください。
- 参加費を納めていない方は、当日1,000円集金します。

主催: 西条市中央公民館・中央公民館登録サークル囲碁教室
問合せ: 中央公民館 TEL0898-65-4030

出典：松山地方事務局・愛媛県人権擁護委員連合会主催「第44回全国中学生人権作文コンテスト」
愛媛県大会 最優秀賞（松山地方事務局賞）（松山地方事務局ホームページ）

～お知らせ～

令和8年度 古典講座受講生募集

- 日 時 令和8年4月から令和9年3月まで
毎月おおむね第1土曜日 13:30～15:30（初回は4月4日）
- 場 所 西条市佐伯記念館・郷土資料館
西条市丹原町池田1711-1（Tel.0898-68-4610）
- 内 容 「百人一首」
- 講 師 武田 真氏
- 定 員 60人（先着）
- 受 講 料 開講日にお知らせします。（年3,000円程度）
その他 テキスト料（実費：800円程度）お持ちの本で代用できます。
- 受 付 期 間 2月7日（土）～3月13日（金）
- 提 出 先 西条市佐伯記念館・郷土資料館
- 問 合 せ 090-4336-3070（黒川）
- ※後 援 西条市教育委員会



＜肖像権の個人情報に係わる承諾について＞

- ◎公民館の学級（講座・子ども教室等）の様子や作品を公民館職員が写真撮影します。
また、撮影した写真を公民館だよりやホームページに掲載する場合がありますので、ご了承ください。
- ◎ホームページで使用する肖像権等の個人情報については、『公民館だよりのホームページ掲載要項』に従い適切に取り扱います。
- ◎ホームページ掲載後に、やむを得ない事情で掲載を取りやめたい場合は、その旨を公民館まで申し出てください。

西条市役所のHPにカラー版の公民館だよりを掲載しています！

検索方法①

市HPのトップページ中段右側
「ページID検索」に
0102255と入力すると
該当ページへ移動します



検索方法②

こちらのQRコードから
どうぞ ⇒



受け入れること

西条市立小松中学校 2年 畑中 希心

僕は難聴だ。この障がいで、悲しい出来事もたくさんあった。それでも今、みんなは難聴の僕を受け入れてくれている。僕は、生まれつき音が聞こえない。生まれてすぐは乳を全然飲まず、死にかけたらしい。ようやく乳を飲むようになった後、僕は耳が聞こえないのだと親は医者から聞かされた。母はショックで、とても悲しんだ。それでも、僕を幸せにしようと、一歳二か月の時に右耳、一歳六か月の時に左耳の手術をして、人工内耳というものを付けた。それで、音が聞こえるようになった。

とても不思議だった。なぜ、障がい者である僕を幸せにしようとしてくれるのか。でも、そのことを両親には聞けなかった。

そうして、僕は松山聾学校の幼稚部という難聴のための幼稚園に入学し、卒業後は地元の小学校に入学した。みんなと初めて出会った場所だ。

みんなは僕のことをとても不思議そうに見てきた。だけど、すぐに仲良くなった。けれど、友達と呼べるほど仲良しになれる人はいなかった。そして、何か月か過ぎると、一人、また一人と離れていき、僕はとうとう一人ぼっちになった。とても悲しかった。もっとみんなと話したい。けれど、話したら嫌われそうだという気持ちが強かった。だから、担任の先生と話したり、本を読んだりして過ごすことが多くなった。正直、寂しかった。ただ家では、オンラインゲームで楽しく過ごすことができた。僕の心の休けい所だった。

五年生になったある日、オンラインゲームのチャットで、「僕、実は難聴なんだ。」と思いついて言った。すると、「難聴は帰れ。」と心ない言葉を投げられた。その後も「障がい者は要らない。」「とっとと消えて！」など、残酷な言葉をいくつも投げられた。そして、ついには仲が良いと思っていた人からも悲しい言葉を投げられ、いじめられた。とても辛くて、悔しかった。大切な人に裏切られ、たまらなかった。障がい者として生まれたことを僕は憎んだ。

最悪の気持ちがしばらく続いた。でも、ネットでいじめられたことや難聴という障がいについて、みんなに知ってもらいたい、だまっていけないという気持ちの方が強くなっていった。それで勇気を出して、別のオンラインゲームで、再び「難聴だ。」と打ち明けた。すると、仲の良い人たちから、「どうして早く言ってくれなかったの。」となぐさめられた。こんな自分を受け入れてくれる人がいると思ううれしかった。救われた思いがした。そして、もっと多くの人に難聴のことを知ってほしいと思うようになった。だから、小学校でも勇気を出してみんなと話すようになった。すると、そのうち友達と思える人ができ始めた。毎日の学校が楽しくなった。

僕は、小学校を卒業し、中学校に入学した。そして、他の小学校の生徒とも一緒になった。少年自然の家や体育大会などの行事で、心配事はいろいろあった。でも、みんなのサポートがあり、楽しく過ごしたり練習したりできた。みんなは僕のことを受け入れてくれていて安心していい。

けれど、まだ不安が心の底にある。また、いじめられるのではないかと心配が、心の中から消えない。僕はおそろおそろ友達に聞いてみた。

「なぜ、僕を大切にしてくれるの？」と。

すると、

「君は友達だから。難聴だったとしても、それ以外は同じだから。」

と言ってくれた。その言葉で、今まで僕に関わってくれた家族や大人たちが、なぜ可愛がってくれたり、怒ってくれたりしたのか、疑問が全て解けた気がした。僕は、自分を健常者とは別の、違う存在のように感じていたが、家族や大人は、同じ子どもとして、対等に見て接してくれていたのだ。心の底から感謝し一人て涙を流した。

僕は今、普通に生活を送っている。家族がいて、友達もいる。だけど、難聴という他の人とは少し違う生活を送っている。不便なところはあるが、それ以外は何も変わらない。

人はみんな、それぞれ人権を持っている。人権は、この世の中で、人らしく幸せに生きる権利だ。健常者の人たち、難聴者の人たち、他に障がいのある人たち、人権はみんなに平等に与えられている。それなのに、少しの違いを理由に、受け入れなかったり、いじめたりして奪ってはいけない。障がいがあっても同じ人間なのだ。それぞれの個性を受け入れて認め合うことで、みんなが幸せになれる。もし困っている人がいたら、こう言いたい。「みんな同じ人間だ。だから、胸を張って前を向こう。」

僕は、これからも明るく幸せに生きていきたい。